

どうする？私たちの兵庫

～6つのプロジェクトで、地域創生をめざす！～

若者・Z世代応援プロジェクト



挑戦を後押しする、兵庫

次代を担う若者が、望む学びや、働き方、暮らし方ができ、存分に力を発揮できる社会の実現に向けた取組です。

ひとりじゃないプロジェクト



みんなでつくる、居心地のいい場所

深刻化する社会的な孤独・孤立を防ぐため、多様な主体と連携してつながりを広げ、課題を抱える方々を支援する取組です。

ひょうご五国豊穡プロジェクト



おいしい「ひょうご」を、召し上がれ

農林水産業の生産性向上や高付加価値化に取り組むとともに、「農」を核とした活気ある農山漁村づくりに向けた取組です。

外国人「第二のふるさと」プロジェクト



多文化共生で、誰もが暮らしやすく

外国人も日本人も同じように安心して暮らし、働ける「共生する地域」の実現に向けた取組です。

五国のナリワイ育みプロジェクト



五国の魅力は、無限大！

地場産業や新産業など兵庫に集積する多様な産業の競争力を強化し、地域の稼ぐ力と雇用力を高める取組です。

五国のご縁(五縁)プロジェクト



私たちが主役！さあ、何から始めよう

地域で活躍するロールモデルを発掘し、交流を通じて優良事例を横展開するなど、地域や人をつなぐ縁を生み出し、地域創生の活動を広げる取組です。

今日からアナタもHYOGO推し

～いいね！が見つかる、ひょうごの暮らし～

出典：第3期兵庫県地域創生戦略

学びのサポートが たくさんある…らしい

- 01 県立大学について県内在住者の授業料などを無償化！
▶▶ 入学金(282,000円)及び授業料(535,800円/年)を免除
(在学生と新入生との支援格差を考慮し段階的に実施)
- 02 留学支援金を給付し、海外留学をサポート！
▶▶ 約1か月間、上限50万円を補助します
- 03 県立学校施設的环境をどんどん改善！
▶▶ 空調整備、個人用ロッカー整備、無線LAN環境整備 等

優しい“地域づくり”が進んでいます

県内の「子ども食堂」の状況

521ヶ所

※R5年時点

小学校区実施充足率順位

全国6位

※認定NPO法人全国こども食堂支援センター「むすびえ」調査



ライフスタイルに合わせて 働ける企業がこんなに！

「ワーク・ライフ・バランスに
取り組んでいます」
と宣言している企業 … 3,894社

そのうち、一定の基準をクリアして
評価・認定されている企業 … 546社

更にそのうち、先進的な取組
により表彰までされている企業 … 167社

※いずれもR6年10月末時点

デジタルな暮らしって、どんな感じ？



路線バスの
自動運転化を目指して！
ドライバー不足でも公共交通ネ
트워크を確保維持するため、
路線バスの自動運転化の実験を
実施

高度データの活用促進！



様々な3次元など高度な
データを、災害被害シミュ
レーションや工事設計に
利活用

「兵庫で暮らせば、こんなことが あるよ or こんなことがあるかも？」



兵庫県移住メディアサイト

HYOGO FLY RIGHT

(((●))) 兵庫で暮らせば…



詳しくはこちら

HYOGO には新しいワクワクがある、らしい
～県民 × 五国、地域創生の取り組み～

発行／兵庫県 企画部計画課
〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1
TEL:078-341-7711 FAX:078-362-3993

06 企 P2-108A4

HYOGOには 新しいワクワクがある

～県民 × 五国、地域創生の取り組み～



『地域創生』ってなんだ？

地域創生とは、人口が減少しても地域の活力を維持し、そこで暮らす人々が将来への希望を持てる地域を実現することです。兵庫県では、自治体や民間企業、各地で活躍する方々と一緒に様々な取組を推進し、地域創生の実現を目指します。

第3期(2025-2029) 地域創生戦略ってなんだ？

兵庫は、歴史も風土も異なる摂津・播磨・但馬・丹波・淡路の「五国」でできており、その多様性や広いフィールドが「個性と強み」です。それらを活かした様々な取組により、各地で地域創生の「種」が芽吹きつつあります。この芽生えを育てつつ、五国全体に広げていくことが、地域創生の実現につながります。

このため、これまでの戦略の検証評価と、時代潮流や社会環境の変化を踏まえ、今後5年間の目標と取組の方向性を定める、第3期「兵庫県地域創生戦略」を策定しました。

これから5年間の大きな目標

基本理念

五国の多様性を活かし、一人ひとりが望む働き方や質の高い暮らしが実現できる地域へ
～地域や人をつなぐ「縁」を生みだし、共創の取組を五国に広げる～

3つの柱

8つの方向性

自分らしく
生きられる
社会の創出

多様な学びや働き方が叶う社会を創る

居場所と役割を創る

寛容性を広げる

五国に広がる
可能性の追求

ひとの動きを生み出す

地域の固有性を磨く

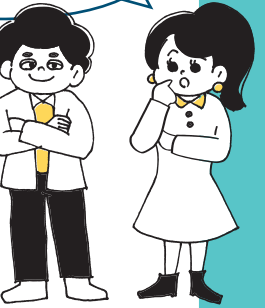
経済活力を創出する

暮らしの
持続性の確保

人・自然・文化を次代につなぐ

安心して暮らし続けられる地域を創る

第1期と第2期の結果を踏まえて
新しく計画を作ったんだね







人間は百面体。

ひとつの面だけでも、つながれたら


NPOや地域活動を応援するCS神戸の事務局長。100か所近くの居場所の開設・運営支援に携わる。

認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸) 事務局長 飛田 敦子

地域の「居場所」づくりで大事にしているのは、交流だけでなく「自分らしくいられて役割がある」場であること。人が元気でいられるために必要なことだと思っています。三木の金物職人だった方が娘さんと住むために神戸に来られたけど、知り合いは一人もいない。「包丁研ぎ」の日を作ることで、ご本人の生きがいに。ずっと専業主婦をされてきた方が、子ども食堂で大活躍。大企業の重役で厳格だった方が、ボランティア活動を通して和やかに。そんな例がたくさんあります。参加者が

ご縁をつなぐ、にぎわいづくり


自分らしく生きられる社会の創出



子育てをしながら女性管理職として活躍。仕事と家庭を両立しやすい社内環境づくりに尽力。

日本イーライリリー株式会社 部長 岡本 麻紀子

リモートワーク、子育てしながらの管理職など、多様な働き方について当事者として取り組んできました。私の場合、「家庭の顔」と「仕事の顔」の両方があってこそ自分の。そのために、全部自分でしようとすることは早々に諦めて人に任せながら、「ここだけは自分でやりきる」ということを決めてやってきたように思います。制度やカルチャーは作っていくもの。当事者がその立場にいるからこそ言えることを伝え、周りを巻き込んでいくことで変わっていくと思っています。



諦めるところと、諦めないところのメリハリ

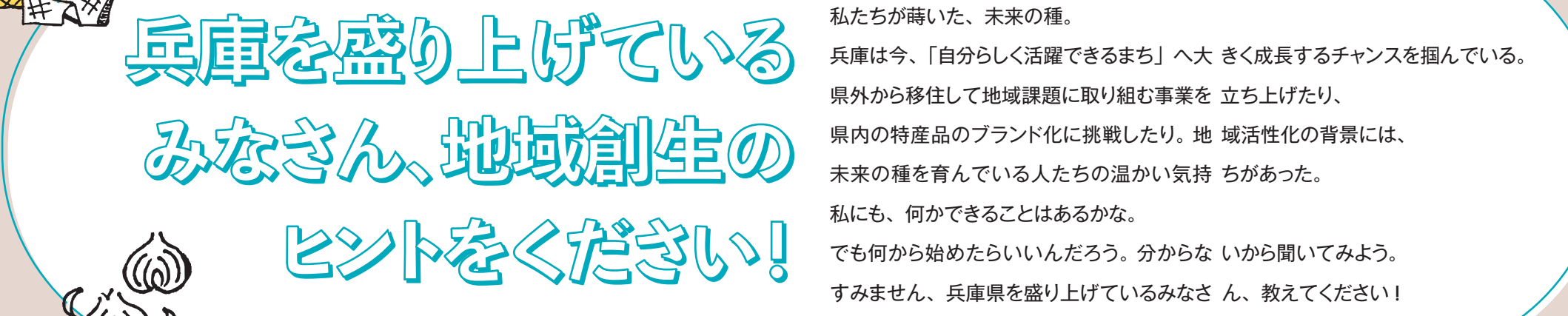


神戸の下町で暮らす2児の母。下町暮らしの魅力を伝える様々なコミュニティ活動を実践

合同会社ごともみらい探求社 下町暮らし研究所代表 小笠原 舞

長田はおせっかいな地域と言われますが、実は誰もおせっかいとは思っていません。例えば、銭湯で隣のおばちゃんや子どもを見られるのは、自然な興味関心なんです。それをありがとと普通に受け取れば、「人を頼る」というハードルはそんなに高くはありません。自然体で助け合える身近なコミュニティがあると自分が楽で、自分らしく子育てや仕事ができる気がするんです。暮らしに正解はないし、興味もそれぞれ。畑や朝活などいろんな入り口から、人が混ざり合って起こる化学反応を楽しんでいます。

2つ3つの家族が助け合う、それも十分にコミュニティ



兵庫を盛り上げているみなさん、地域創生のヒントをください！

私たちが蒔いた、未来の種。

兵庫は今、「自分らしく活躍できるまち」へ大きく成長するチャンスを掴んでいる。県外から移住して地域課題に取り組む事業を立ち上げたり、県内の特産品のブランド化に挑戦したり。地域活性化の背景には、未来の種を育てている人たちの温かい気持ちがあった。

私にも、何かできることはあるかな。

でも何から始めたらいいんだろう。分からないから聞いてみよう。

すみません、兵庫県を盛り上げているみなさん、教えてください！



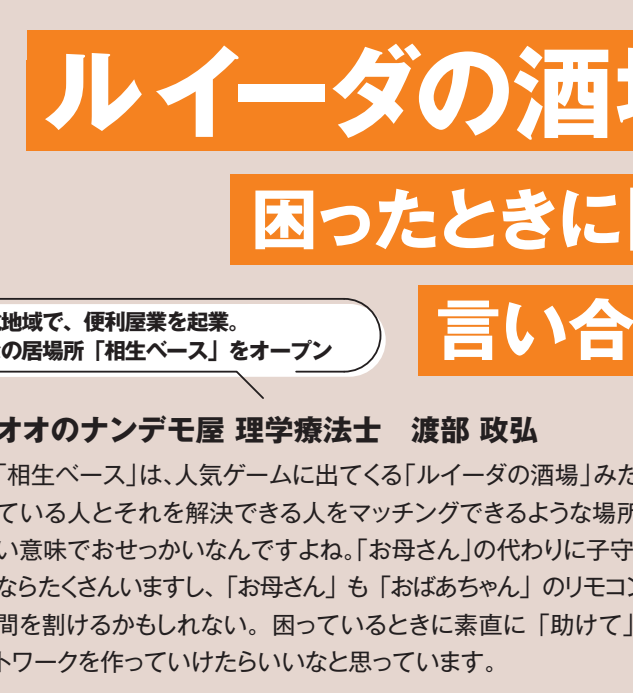
淡路島に移住し、シマトワークスを起業。島の豊かな資源を生かした事業を、次々と生み出す。

株式会社シマトワークス 代表取締役 富田 祐介

東京を離れ、淡路島で起業したのは、島の人・モノ・コトが好きだから。そうした自分の「好き」を企画に生かすのが「ワクワク」するんです。今の自分はちゃんと「ワクワク」できているか？ なんとなくの「おしごと」になっていないか？ いつも自分のワクワクを俯瞰しています。感動した映画にうらやましさを感じたり、分野の違う場で活躍する人を見てライバル心を感じるのはなぜだろう？ なんて考えることも。ここまでくると、もはや「習性」なんですかね。「食の学校プロジェクト」も、そうしてできたひとつ。ワーケーションに来た人たちがみな胃袋をつかまれるほど、魅力的な食材が集まる淡路島に、食のプレーヤーたちが学び、つながれる場所を作りたいんです。たいそうな「ビジョン」より「ワクワク」。ワクワクする自分に忠実になれば、ご近所さんから「島のためにがんばっている人」と言われるようになりました(笑)。

自分のワクワクを俯瞰する

郷土愛とプライドを「Local to Local」で



高齢化地域で、便利屋業を起業。みんなの居場所「相生ベース」をオープン

オオのナンデモ屋 理学療法士 渡部 政弘

「相生ベース」は、人気ゲームに出てくる「ルイーダの酒場」みたいにしたいんです。困っている人とそれを解決できる人をマッチングできるような場所に。この町の人って、いい意味でおせっかいなんですよね。「お母さん」の代わりに子守りしてくれる「おばちゃん」ならたくさんいますし、「お母さん」も「おばあちゃん」のリモコンの電池交換くらいなら時間を割けるかもしれない。困っているときに素直に「助けて」と言える町。そんなネットワークを作っていきたいなと思っています。

ルイーダの酒場 みたく。困ったときに「助けて」と言い合えるまちに

みんなで見守り、育てるまち

暮らしの持続性の確保



兵庫各地の食材を一堂に味わえる「ひょうご五国ワールド」を運営。郷土の食文化の魅力を発信し、地域活性化に貢献。

株式会社ワールド・ワン 代表取締役社長 河野 圭一

「ひょうご五国ワールド」に県外の人と一緒に来られる県在住のお客さんって、みんな自分の地域の「おいしい」とか「タマキ」は淡路のしか食われへんとか(笑)。五国にはそれぞれ地域のプライドがある。でも、五国がつながり合うことで、その文化や食の魅力はもっと伝わるはず。それが東京で売れなくてもいいんです。国内でも海外でも、本場に「ズ」のある地域に届けば、「Local to Local」が新たな文化や商品を生むかもしれない。

何かが生まれる人付き合いの中で、ことが地域貢献。飲み歩く

地域の資源を、見逃すな！

五国に拡がる可能性の追求




老舗酒蔵、西山酒造場の女将。蔵人や地域を巻き込みながら挑戦を続ける。丹波地域の風土や酒造りの魅力を伝える「鼓傳・koden-」をオープン。

株式会社西山酒造場 取締役女将 西山 桃子

地域にとって酒造りだけじゃない「酒蔵」の役割って何だろう？ そう考えるようになった転機は、2014年8月の豪雨による土砂災害でした。蔵も商品も土砂でダメになって「潰れるかも…」という状況で、ふとこの地域から伝統産業の火を消してはいけないと思ったんですよね。美味しい地酒がある、通学路に酒蔵がある。それだけでも地元を誇れるきっかけになるかもしれないって。昨年、古い酒蔵を改装して酒・発酵・芸術の複合施設「鼓傳(こでん)」をオープンした際は、

「なんにもない田舎やん」じゃなくなるきっかけに「酒蔵」がなれたら

まず地域の方をお招きしました。中には「子どもの頃、この蔵で遊んでたわ」と喜んで下さる方も。今の子どもたちにとっても、思い出に残る場所になったら嬉しいですね。「鼓傳」は間口を広げて、酒造りや丹波を知ってもらう場を目指してます。丹波の木材でメニューブックやトレーを作ったり、地元農家さんの有機野菜を使ったり。食事や買い物しながら丹波の魅力に触れて貢献できる、そんな循環を生み出していきたいです。



豊岡でゲストハウス起業。コンセプトは、旅行者と地域を繋ぐ交流の場

Hostel Act&もりめ食堂 森 恵美

私が思う豊岡の一番の魅力は、やっぱり“人”かな。北前船の寄港地だった歴史があるからか、移住者にも旅行者にも壁がなくてフランクなんです。私自身、あちこち飲み歩くうちに地域の人との関係性ができて、今ではゲストハウスのお客さんも巻き込んでの交流。行きつけのスナックに外国人を案内してくれるおじいちゃんもいたり(笑)。市場や劇場や銭湯…豊岡の好きな場所にはずっとあり続けてほしいから、より多くの人が訪れるきっかけが大切なんです。

飲み歩く



丹波篠山市に移住し、福住地区の移住コーディネートに取り組む。古民家や空き倉庫を活用し、地域全体の価値向上に貢献。

株式会社Local PR Plan 代表取締役 創造的職人宿場町福住事業協同組合 安達 鷹矢

移住者の僕が「まちづくり」って言葉を使うのは上から目線。脈々と暮らしが続き、福住のまちはすでにつくられていたのだから。「創造的職人宿場町」の活動は、自分の毎日を豊かにすることでしかなくて。近くにうまいコーヒー店やパン屋がほしいと、歴史的なまち並みに職人を集めたら、多くの人を訪れるようになっただけ。ただ利己的ではなく、仕掛けの先にまちの人の幸せは設計します。礼儀知らずの小僧を受け入れてもらった恩を返せるように。

創造的職人宿場町